

| | | | | | | | |
|--|--|-----|------|---------|--------|--|----------------|
| 授業科目(ナンバリング) | 介護福祉論 (DF201) | | | 担当教員 | 浦 秀美 | | |
| 展開方法 | 講義 | 単位数 | 2 単位 | 開講年次・時期 | 2 年・前期 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業のねらい | | | | | | | アクティブ・ラーニングの類型 |
| <p>本講義では、高齢者の生活実態、支援方法と実際、組織間・専門職間の連携や協働の実際について学修する。健康な高齢者・支援が必要な高齢者・介護が必要な高齢者・終末期における高齢者等、高齢者への支援は幅広い。また、支援の対象も高齢者本人だけとは限らない。支援が提供される場（機関）も多様である。このことから、高齢者支援の基本理念や理解、支援方法を確認し、知識の修得を目指す。そして、福祉の基礎的な知識と技術も実際に体験する。そして、本学のディプロマポリシーでも示されている専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとしたい。</p> | | | | | | | ②⑤⑦⑨⑩ |
| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | | | | | 評価手段・方法 | 評価比率 |
| 専門力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者支援のための具体的方法を説明できる。 ・ 介護を理解することの必要性を説明できる。 ・ 認知症の状況や状態に基づいた支援方法を説明できる。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験 ・ 最終レポート | 30% 20% |
| 情報収集、分析力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ケアマネジメントの流れを類別できる。 ・ 介護過程における情報を優先順位をつけながら類別できる。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題レポート | 20% |
| コミュニケーション力 | | | | | | | |
| 協働・課題解決力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ これからの高齢者福祉課題の検討を同職種・多職種と協調できる。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験 | 10% |
| 多様性理解力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 組織間・専門職間連携や協働の実際を理解することができる。 ・ 高齢者に起こりうる諸問題を理解することができる。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験 | 20% |
| 出 席 | | | | | | 受験要件 | |
| 合 計 | | | | | | 100% | |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験（60％）：筆記試験（持ち込み不可）を行う。 ・ 課題レポート（20％）：リフレクションカードによるものを中心に実施する。評価後は授業等で紹介しながらフィードバックを行う。 ・ 最終レポート（20％）：ポートフォリオによるレポート提出を課す。テーマや体裁、文字数等を指示する。文字数不足や誤字・脱字、体裁が異なる場合などは減点の対象とする。 | | | | | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | |
| <p>本科目は、社会福祉を学ぶものとして、あるいは、社会福祉分野で働くものとして、関連領域としての介護（支援）の理解を深めていく。また、介護が必要な人の理解や支援（ケアマネジメントや介護予防、介護の技法）の方法を学ぶ（ディスカッションも行う）。さらに、支援に必要な福祉用具についても随時紹介し、実物に触れたり、自分自身の体の動きを制限するという条件下で体験時間を設け（嚥下動作の確認や着脱動作の確認等々）、具体的な理解につなげる。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p> | | | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | | | |
| 教科書：中央法規『新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度 第6版』（2019） 参考書：授業の中で適宜紹介する 指定図書：中央法規『新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度 第6版』（2019） | | | | | | | |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | | | | | |
| <p>利用者へ適切なサービスを提供するためには、授業で学ぶことに加え多くの知識を得ることが大切です。高齢者をめぐる諸問題について、新聞などから情報収集をして授業に臨まれることを期待します。また、授業に臨むにあたって、他者に迷惑がかかること（遅刻・欠席・途中退席・携帯端末操作・居眠り・私語等）はしないでください。</p> | | | | | | | |

| 回 | テ ー マ | 授 業 の 内 容 | 予 習 ・ 復 習 |
|----|-------------------------|---|--|
| 1 | オリエンテーション 日本の高齢化 | 高齢者を理解するための方法について学ぶ。個別援助技術・集団援助技術・地域援助技術について学ぶ。 | 予：テキスト「はじめに」を確認 復：配付資料再読 |
| 2 | 高齢による変化と影響 | 高齢者の身体的特性、疾病や心理、老化による変化とパーソナリティを学ぶ。日常生活に及ぼす影響と生活ニーズを理解する。 | 予：高齢者のところとからだイメージ 復：配付資料再読 |
| 3 | 高齢者支援の方法と実際 | ケアマネジメントと高齢者支援の留意点を学ぶ。介護保険法における連携と実際を学ぶ。 | 予：①ケアマネジメント調べ 復：配布資料再読 |
| 4 | 高齢者を支援する専門職の役割と実際 | 専門職の役割と実際、協働を学ぶ。チームアプローチの展開・実際・促進要件を理解する。専門職の倫理を理解する（専門職と倫理、倫理綱領）。 | 予：社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士調べ 復：チームアプローチの振り返り |
| 5 | 高齢者に対する諸施策 介護の概念や対象① | 介護と住環境、バリアフリー法を学ぶ。介護実践の構造を学び、介護の必要性を考える。介護の専門性を支える理念と価値を学ぶ。 | 予：高齢者住まい法調べ 復：介護の理念と価値を振り返る |
| 6 | 介護の概念や対象② | 利用者の生活の理解と家族支援について学ぶ。介護活動の場を学ぶ。 | 予：高齢者の生活イメージ 復：配付資料再読 |
| 7 | 介護過程① | 介護過程の概要や介護予防を学ぶ。介護過程と介護計画を理解する。介護予防ケアマネジメントを学ぶ。 | 予：介護予防のイメージ 復：配付資料再読 |
| 8 | 介護過程② | アセスメントの視点と対象を理解する。介護過程の基となる事実と情報、展開の実際を学ぶ。 | 予：アセスメント意味調べ 復：配付資料再読 |
| 9 | 介護と住環境 介護の技法① | 自立した日常生活支援を理解する。高齢者が住みやすい住居や整備を考える。また、身支度を学び、メリハリやリズム、刺激を理解する。 | 予：メリハリある生活とは 復：配付資料再読 |
| 10 | 介護の技法② | 負担なく移動するためのボディメカニクスを理解し、移動方法や介助、福祉用具使用の介助を理解する。睡眠とは何か、睡眠のしくみや入眠援助を学ぶ。 | 予：ボディメカニクス調べ 復：配付資料の再読 |
| 11 | 介護の技法③ | 食支援の視点（基本姿勢や摂食・嚥下の過程）を学ぶ。口腔ケアに必要な視点を理解する。排泄動作（アセスメント）を理解し、排泄介護の実際を学ぶ（トイレ介助・失禁対応・おむつ）。 | 予：食事動作のイメージ 復：配付資料の再読 |
| 12 | 介護の技法④ 認知症ケア① | 入浴の意義と介護方法を学ぶ。安全な入浴への配慮を学ぶ。清潔動作として清拭や部分浴を理解する。認知症を理解する（中核症状・周辺症状等々）。 | 予：清潔動作イメージ 復：配付資料の再読 |
| 13 | 認知症ケア② | 認知症ケアの基本的な考え方を学ぶ。認知症高齢者と家族を支えることなど、認知症ケアの実際も学ぶ。 | 予：認知症現状調べ 復：配付資料再読 |
| 14 | 終末期ケア | 高齢者の終末期ケア、死にゆく人へのケア概念の変遷を学ぶ。また、高齢者の終末期ケアのあり方を考える。 | 予：終末期現状調べ 復：配付資料再読 |
| 15 | 近未来の高齢者福祉課題とまとめ | 高齢者への支援システム（社会活動支援、就労・学習支援、予防、投資的社会）を理解する。介護福祉論全般を振り返る。 | 予：高齢者就労調べ 復：配付資料の再読 |
| 16 | 定期試験 | | |